

Audit Analytics の適用例 工事案件のリスク評価におけるアナリティクス・AI 活用

アナリティクスにより工事案件毎にスコアリング、高リスク案件の識別に関する示唆を提供

Audit Analytics とは、企業の財務・非財務データを分析・可視化することで、効率的かつ効果的な監査を実現する有限責任監査法人トーマツ（トーマツ）の先進的な手法です。トーマツの被監査会社の監査において、工事案件のリスク分析における適用例を紹介するとともに、実際に導入した被監査会社からどんな声が寄せられたかを紹介します。

1. アナリティクス導入前の企業の事業環境と課題

事業環境	企業側の課題	監査側の課題
事業拡大する中で、工事案件の増加、複雑化	- エクセル管理の継続 - 従来のモニタリング手法から進化がない（資料との照合や利益率の確認程度）	- リスクの高い工事の識別に時間がかかる - リスクの高い工事に関するクライアントとの討議の充実

2. 被監査会社の監査に導入したアナリティクス：工事案件リスク分析

分析内容

- 受注金額、工事原価、利益率、進捗率などを分析項目として採用
- シナリオ毎に抽出条件を設定し、該当取引の識別や AI を活用したスコアリング
- 全体の可視化により、部署・担当者・同種案件毎に外れ値の識別

利用データ

- 工事案件データ、各種マスターデータ 等

主なメリット

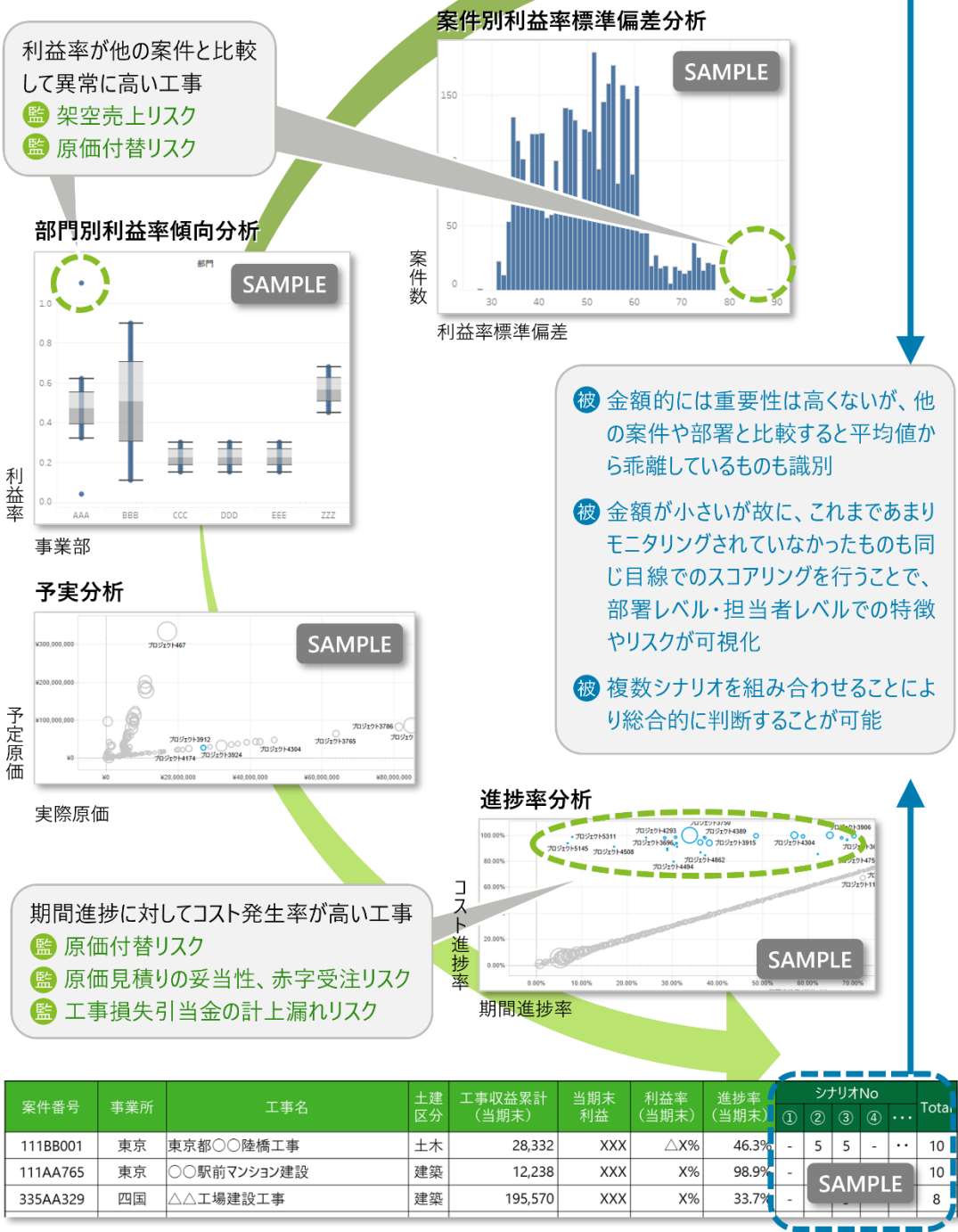
- リスク取引の網羅的な抽出に加え、中小規模の案件であっても、同種取引との比較を通じて外れ値の識別
- 複数シナリオからのスコアリングにより総合的なリスク評価

リスクシナリオの設定

監：監査法人 被：被監査会社

複数のシナリオを想定し、シナリオ毎に抽出条件を設定し、スコアリング

シナリオNo.		①	②	③	④	SAMPLE
スコア（該当する場合の付与点数）		5	5	5	5	
抽出条件No.	抽出条件／リスクシナリオ詳細	未契約受注高の過大計上	損益悪化要因が顕在化しているのに工事損益の見直しを行わない	工事間の原価付け替え（付替元）	工事間の原価付け替え（付替先）	...
	1 当期末の未契約受注高がxxx百万円以上の工事	○				
	2 工期進捗率が中盤にもかかわらず、工事原価が前期末からほぼ増加していない（＝工事が進んでいない）		○			



3. アナリティクス導入による被監査会社の監査における変化

■ 監査品質

収益認識、損失引当などの評価

- 原価発生曲線の可視化と同種案件との比較を通じて、進捗率が低い段階から外れ値が可視化され、リスク工事の早期識別につながった。
- 四半期ごとの報告会にて、分析結果を使いながら、CFO・監査役と監査人の間でリスク案件に関する具体的な討議を行うことができ、コミュニケーションが密になった。
- 被監査会社にとって、サプライズなく、かつ全量解析による納得感と安心感を感じられるような監査になった。

■ 付加価値

採算管理に関する洞察

- 監査人との分析項目やシナリオの討議により、被監査会社側の知見が可視化された（従来は監査人の頭の中）。
- 不採算プロジェクトの早期識別により経営効率の向上やコスト削減につながった。
- 監査人のリスク評価の着眼点を知ることで、被監査会社は自社のデータを使った分析の参考にすることができた。
- 部署を跨ぐ業務改善は、立ち上げるだけで大変な中、監査対応が良いきっかけとなり、部署を超えた取り組みを進める機運が高まった。